



つなぐちゃんベクトル

社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会社内誌 臨時増刊 307号 2011.3.23 発行 社会政策研究所

=====

車6台上山に「やっと着いた」



朝日新聞 2011年03月23日

差し入れの玉こんにやくなどを食べる避難者ら。冗談も飛び出すが、「早く帰りたいな」と一人がいうと、みな言葉少なになった＝上山市元城内の上山市働く婦人の家

∞ 今後の生活抱える不安

福島・南相馬の障害者施設 退避指示で入所者ら 26人

上山市元城内の「上山市働く婦人の家」に、福島県南相馬市のNPO法人が運営する精神障害者と知的障害者の就労支援施設やグループホームの入所者ら26人が避難している。震災後、不安からよく眠れなかった入所者たちはひと安心しつつも、今後の生活には不安を抱えている。

一行が自家用車6台で南相馬市を離れたのは17日。NPO法人「あさがお」(西みよ子理事長)が運営するグループホーム3施設の入所者18人と、一人暮らしで就労支援施設に通う3人、職員や家族が同行した。施設はすべて福島第一原発から25キロ圏内にあり屋内退避が指示されていた。

余震や暖房不足、原発事故などで症状が不安定になる入所者もいた。「バスなどで避難させられないか」と西理事長が市に掛け合ったが、「一般の人と一緒にバスに乗せるのは無理だ」と断られたという。「身体の障害と比べて障害や症状が見えにくく、誤解も根強い」と西さん。

原発事故以降は食料やガソリンに加え、障害の症状を抑える薬も入手が難しくなり、不安から幻聴を訴えたり、うつ状態になったりする人もいたという。このため、福島県伊達市の避難所を経由して18日に上山市にたどり着いた。

「ここに来て、ゆっくりと眠れるようになった」と入所者の女性(50)は話す。薬も山形市内の病院で処方してもらえた。自炊しているが、近くの人たちから毎日のように総菜や毛布などの差し入れがある。入所者たちも雪かきや避難施設の掃除を手伝う。笑顔も見られ、西さんは「地元の人たちとの交流が一番の癒やしになっている」という。

気がかりなのは福島に戻ってからの生活。入所者たちは豆や米などを無農薬で作って販売し、収入を得てきたが、原発事故で畑が放射能に汚染されてしまったのではないかと心配する。「精神や知的障害者の施設は地域の人との信頼関係づくりに時間がかかるので移転は難しい」と西さんは不安を隠さない。入所者の一人、吉川真照さん(37)は「上山の人は優しくてうれしいが、福島に戻れるかが心配。また仕事がしたい」と話している。(笹円香)

介護支援事業者の運営基準「柔軟に」・東日本大震災の被災地などで

キャリアブレイン 2011年3月22日

厚生労働省は3月22日、東日本大震災の被災地や計画停電対象地域などで居宅介護支援や介護予防支援に取り組む事業者について、運営基準の柔軟な取り扱いを求める事務連絡を、都道府県介護保険主管部局あてに発出した。

事務連絡では、被災地（災害救助法の適用を受けた市区町村）や計画停電対象地域、福島第1原発の事故に伴う避難区域・屋内待避圏内、地震や原発事故に伴う避難者の受け入れを行っている地域で、居宅介護支援事業や介護予防支援事業を営む事業者に対し、運営基準などを柔軟に取り扱うよう求めている。

具体的には、利用者がやむを得ずサービスを変更する場合、ケアプランの変更は、サービスを変更した後に行きよい居宅サービス計画などの実施状況の確認（モニタリング）については、電話などによって本人か家族に確認し、居宅介護支援経過へ記録することが可能。一時的ながら、1人のケアマネジャーが8件以上の介護予防支援業務を受託できる一などが示された。居宅サービス計画作成依頼（変更）届出書や介護予防サービス計画作成依頼（変更）届出書に関する基準についても、通信手段の回復後の届け出を可能にするなど、柔軟な取り扱いを求めている。

また、介護報酬については、「逡減制の適用除外（1人のケアマネジャーが40件を超える居宅介護支援を担当する場合でも報酬の減額は行わない）」をはじめ、運営基準減算や特定事業所加算、特定事業所集中減算などの基準についても、柔軟に取り扱うよう要望している。

被災した妊産婦や乳幼児に特段の配慮を- 厚労省

キャリアブレイン 2011年3月22日

厚生労働省は3月22日、東北地方太平洋沖地震で被災した妊産婦や乳幼児については、「災害時要援護者」として優先的に住居が確保できるよう支援することなどを都道府県に事務連絡した。

事務連絡によると、被災した妊産婦や乳幼児に対しては優先的に住居が確保できるよう支援するとともに、各地の母子生活支援施設が利用できる。同省児童家庭局によると、母子生活支援施設は全国に272か所あり、被災地以外の都道府県にある施設を利用することも可能としている。

また、仮設住宅や公営住宅などに入居した妊産婦や乳幼児への訪問支援を行うほか、避難所にいる場合には間仕切り用のパーテーションを設置するなどしてできる限り配慮し、産前産後の心身のケアを行うよう求めている。



たまには太陽の子・手をつなぐ、たまにはつなぐちゃんベクトル、たまにブログたまにはチェック

